

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和8年度～令和12年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（みやぎなんぶ） 宮城南部森林計画区 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 仙台森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、宮城県のほぼ中央から南部に位置する仙台市をはじめとする5市8町に所在する約55千haの国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区の国有林野は、山形県境に接する奥羽山脈に連なる山岳地帯、その山麓に広がる丘陵地帯、阿武隈山系の内陸部に散在する丘陵地帯及び太平洋沿岸に広がる海岸地帯に区分される。山岳地帯の奥羽山脈では、北部は急傾斜地が多く起伏しており、西部は比較的安定した地形となっている。また、丘陵地帯は海拔500m以下の起伏の少ない地形となっている。</p> <p>本計画区内の国有林野の90%が保安林に指定され、水源涵養や土砂流出防備等に重要な役割を果たしており、水源涵養機能はもとより、山地災害防止機能や土壌保全機能等の森林の有する多面的機能の高度な発揮が期待されている区域である。</p> <p>また、本計画区内には、蔵王国定公園をはじめ船形連峰県立自然公園ほか3箇所の県立公園が存在するとともに、優れた自然・景観に恵まれ、スキー場をはじめとする野外レクリエーションや保健休養の場として多くの人々に利用されているほか、豊かな自然環境が保全されており、希少猛禽類であるイヌワシ・クマタカなどの多様な野生生物が生息している。さらに、丘陵地帯では都市近郊森林の一部を自然休養林としており、都市住民の休養・憩いの場として利用されている。</p> <p>林業・木材産業については、戦後造林されたスギ等が成熟し、多くが利用期を迎えており、県内には大規模合板工場や製材工場が稼働しており、バイオマス発電施設の建設が進むなど、木材の安定供給への期待が高まっている。</p> <p>森林の現況は、人工林を中心とした育成林面積が19千haで、スギ(37%)、アカマツ(31%)、カラマツ(26%)が主な樹種となっている。天然林面積は32千haで、主にブナ、クヌギ、ナラ類等の広葉樹とアカマツが主体となっており、蔵王連峰の標高1,200m以上ではオオシラビソ（アオモリトドマツ）やコメツガ等が混交林を構成している。</p> <p>人工林の齢級構成については、12齢級をピークとした一山型であり、10齢級以上が8割以上となっており、主伐、間伐を見据えた路網整備や主伐後の確実な更新とその後の保育が必要となっている。</p> <p>このため、本事業は、森林の有する水源涵養機能、土砂流出防止機能、保健文化機能などの公益的機能の持続的な発揮と併せ、木材の安定供給、地球温暖化の防止</p>		

	<p>育等の適切な森林整備や、これと連携した路網整備により、森林の有する公益的機能を十分発揮させるものとなっているほか、完了後の評価結果を踏まえた事業内容となっており、本事業の有効性が認められる。</p>
--	--

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：宮城県

施行箇所：宮城南部森林計画区(仙台森林管理署)

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	3,476,343	
	流域貯水便益	684,423	
	水質浄化便益	2,912,144	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,592,507	
環境保全便益	炭素固定便益	729,112	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	3,542	
	木材利用増進便益	3,735	
	木材生産確保・増進便益	470,016	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	569,491	
総 便 益 (B)		12,441,313	
総 費 用 (C)		5,030,639	
費用便益比	$B \div C = \frac{12,441,313}{5,030,639} = 2.47$		

参考

費用便益比 (i=0.02)	$B \div C = \frac{19,458,290}{6,154,955} = 3.16$	
費用便益比 (i=0.01)	$B \div C = \frac{25,395,743}{6,996,040} = 3.63$	

森林環境保全整備事業 宮城南部森林計画区（宮城県） 仙台森林管理署 事業概要図

宮城南部森林計画区位置図
(仙台森林管理署)



森林整備位置図



地拵



植付



林道（林業専用道）開設



間伐



下刈

